平成30年3月1日(木)～3日(土)
上砂川町生活支援・介護予防体制整備協議会

上砂川町第1層協議体研修視察レポート（Web公開用）

実施概要

- 開催日時：　平成30年3月1日(木)～3日(土)　2泊3日
- 開催目的：　協議体構成員が協議体の先進地を視察し、協議体・コーディネーター・介護予防や生活支援を学習することにより、今後の上砂川町における生活支援・介護予防体制整備事業を円滑に進めて行く足掛かりとする。
- 視　察　先：　檜山郡江差町　および　函館市
- 研修参加者：　9名

（協議体より3名、地域包括支援センターより3名、社会福祉協議会より2名、町福祉課より1名）

研修内容について①（1～2日目午前）

- １日目の移動時、気候（暴風雪）の影響により、道央自動車道が通行止めとなった。苫小牧東ＩＣにて高速道路を下りざるを得なかったため、函館市到着が当初予定より１時間半ほど遅れたが、行程全体の体制に大きな影響はなかった。
- ２日目早朝、渡島檜山地方の天候が悪化した。また、函館市より江差町へ向かう木古内ルート（道道５号線）および厚沢部ルート（国道227号線、道道29号線）が共に通行止めとなった事も報じられた。今回の江差町研修の窓口担当者に現地情報を問い合わせたところ同様の回答があり、協議の上で江差町研修については断念した。函館市内の天候も荒れていたため、午前中についてはホテル内待機とし、その旨を参加者各位に伝達した。
- 3月5日、江差町より、今回の研修で使用する予定だった資料が送付されたので、今後活用したい。

江差町との主な事前質問事項と回答概要

- Q. 江差町における地域アセスメントの手法について

  A.　第2層コーディネーターが全戸個別訪問を実施している。困りごとだけではなく、地域に眠っている資源や人材発掘等も同時に行いたいと考えている。対象は限定せずに行っている。

- Q. 江差町における協議体の組織化と運営の進捗について

  A.　様々な視点や発想を地域課題解決に取り入れるため、高齢者に関わる分野・団体だけでなく若者層の団体や障がい者団体、民間企業も加入し協議体を形成しており、江差町ならではの協議体の形を模索している。情報の共有化、つまりは感じている事や考えている事を気兼ねなく出し合える雰囲気作りを重点としている。

- Q. 「住民主体」の事業展開について

  A.　ボランティアの養成や事業展開について、行政からの直接的な訴えかけは行っていない。地域の実情などの情報提供を根気よく行い、協議体や地域住民からボランティアや事業の必要性について意見や要望が挙がってくることを望んでいる。実際の行動までにはかなりの時間と手間を要するが、住民のペースに合わせてゆっくり進めて行く。

- その他、包括ケアシステム、介護予防事業、生活支援事業について多数ご回答頂いた。

研修内容について②（2日目午後）

- 　3月2日（金）13：30より16：00まで、函館市地域交流まちづくりセンター内にて、『生活支援活動・協議体について』という題目で講演会が実施された。午前に行う予定だった江差町での情報交換会が中止となったため、時間を繰り上げての実施となった。
- 　講師は、丸藤　競　氏（函館市地域交流まちづくりセンター・センター長　兼函館市第１層生活支援コーディネーター）。平成29年度生活支援コーディネーター養成研修（札幌会場）にても講師を務めている。
- 　事前の打合せでは、協議体に重点を置いた講演を依頼していたが、江差町での情報交換会が出来なかったことを告げると、それに合わせた形でプログラムを組み直して頂けた（介護予防に関する事項や、生活支援体制整備に関する事項の追加等）。また、事前に研修参加者より質問事項を受け付け、その事項に沿った形で講演が行われたので、参加者各位の知的欲求は一定量満たされ、非常に充実した研修だったように感じる。

函館市地域交流まちづくりセンターでの研修の様子

函館研修における主な質問事項・課題と回答概要

- Q. 協議体とコーディネーターの協働体制や、あるべきシステムについてどう捉えるか？

  A. 協議体に決まった形はない。単なる会議要員でもない。コーディネーターと協議体が共通のテーマについて気軽に語り合う事が出来る関係の構築が重要であると考え、函館市においてもそれを念頭に活動している。

- Q. 函館市における生活支援サービスの開始時期や実施状況は？また、「家に入り込むサービス」についてはどのように捉えるか？

  A. 近所の支え合い等による生活支援は各所で行われている。生活支援に関しては日常生活の延長上の活動を提唱しており、活動に関する報告義務等は特に設けておらず、実数把握はしていない。上砂川町のようなコンパクトな町であれば、違った形を作ることが出来るかも知れない。

- Q. 包括ケアシステムを住民に周知させる手段は？

  A. ワークショップやサロン活動といった集まる場が主。「包括ケアシステム」や「介護保険制度の改正」云々といったような、マニュアル通りの難しい表現を使って説明しても住民はなかなか耳を傾けない。不足しているもの、必要なものは何なのかを大局的に見据えた上で、噛み砕いた表現を使って根気よく活動していく事が必要だと感じる。

- Q. 介護予防ボランティアの養成育成やポイント管理は何処が所管で、どのような状況にあるか？

  A. 函館市が所管。養成講座は参加者20～40人で年2クール行われている。活動は盛んに行われている。Ｓ県Ｕ市の話になるが、一つの地区が考案した体操を全体会で披露したところ、他の地区もそれに負けじと様々な体操を考案し競い合い、市全体に普及したというケースがある。市民によって考案された体操は大学の研究機関等の監修を受け、介護予防効果の裏付けも取れている。住民主体による活動を行政等がバックアップするという形の一例。

函館研修における主な質問事項・課題と回答概要

- **Q.** データから予測する上砂川町について

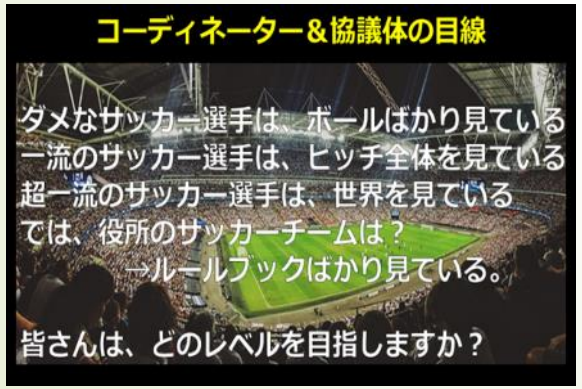
  A. 人口推移予測のグラフから見て、今後の上砂川町では高齢者人口減少に加え、それ以上のペースで若年・労働人口も減少していくことが予測されていることから、当たり前のことを当たり前にやっているだけでは隣近所の支え合いさえも立ち行かなくなる可能性が高い。

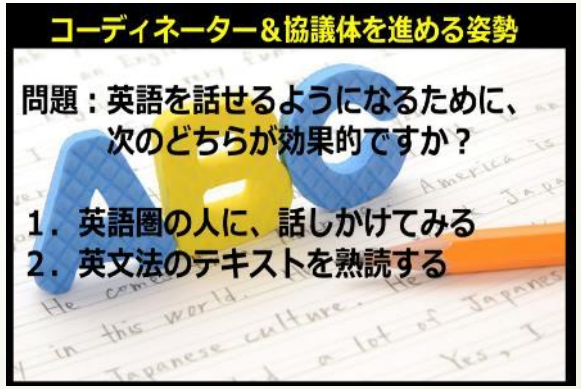
- **Q.** 介護予防事業と生活支援事業の「二刀流」について

  A. 今後の危機的状況を乗り越える手段として、①皆が社会参加することでずっと元気でいる（介護予防）、②皆が助け合い支え合う（生活支援）、以上２点を指して「二刀流」と呼んでいる。二刀流を実現する上でのコーディネーターおよび協議体の使命として、「まちを知る（データを活用する、歴史・文化・生活を知る）」ことにより根本原因や課題・解決策を探る事を挙げる。

- **Q.** 今後の事業展開について

  A. どんな目線で、どんな姿勢で、何を使命として動くか。時間はどうやってもかかるが、諦めずに全力を尽くして行くことが大切なのではないか。





地域の未来のために、
本当に大切なことを実現できるように、
全力を尽くす。
- 出し惜しみしない
- できないフリしない
- あきらめない
- 「誰かがどうにかしてくれる」なんて甘えない

- その他、多方面に渡りアドバイス等頂いた。

研修内容について③（帰町～総括）

- 　3日目は天候にも恵まれ、ほぼ予定通りの行程となった。悪天候の中での2泊3日という厳しい行程であったが、事故なく終える事が出来た事は喜ばしい限りである。
- 　協議体に関与する各課の人員が一堂に会して行動する良い機会となり、今後一体感をもって活動していく上で、良い糧となる研修であった。
- 　天候により江差町での情報交換会を実施できなかったことは痛恨の極みであるが、函館市での講演会では大きな収穫があったと感じる。両市町担当者の方々には、急な申出にも関わらず非常に真摯に対応していただいた。心より感謝申し上げたい。
- 　今回の研修から何を学ぶかは参加者それぞれで差異もあるだろうが、これを活かせるかどうかは我々次第なので、それを肝に銘じて今後の活動を行う。

以上

平成30年3月6日

上砂川町社会福祉協議会

上砂川町生活支援・介護予防体制整備協議会　事務局